

# さいたま 埋文 レポート

2021  
年報 41

古の**まつり**がここにあった！

北大竹遺跡（第18次）行田市

令和2年度に  
発掘調査をした遺跡

北大竹遺跡（第18次）行田市 / 北尾崎北遺跡（第3次）羽生市  
上新郷遺跡（利根川堤防地区）（第2次）羽生市  
道原遺跡（第1次）羽生市 / 平右衛門遺跡（第2次）その1・その2 鴻巣市  
新井堀の内遺跡（第2次）蓮田市 / 本田遺跡（第2次）加須市  
富田庚申塚遺跡（第7次）寄居町





## 「あつちり」

この頃、季節の変化が早くなっているように感じます。二十七年程前だったと思います。四月初旬、奈良県の吉野に桜見物に行ったことがありました。

桜の蕾は未だ堅く、宿のご主人から「十日後にまたいらっしやうてください。」と慰められたことを思い出します。ところが、今年（令和三年）四月当初、吉野に行った人から話を伺えば、中千本あたりでも満開だったとか。

平安末期の歌人、西行法師の歌に「願はくは 花の下にて春死なむ このきさらぎの望月のころ」とありますが、これは陰暦の如月、二月のこと。現在の二月に桜が咲くことはないのですが、将来は太陰暦と太陽暦の季節の相違が判然としなくなるのではと、心配にもなってきました。

当事業団が、昭和五十五年四月の設立以来、手掛けてきました発掘調査による報告書は、これまで470冊を数えます。そこから垣間見られるものは、千数百年の間、絶えず営まれてきた、先人たちの暮らしの様子です。

環境科学の知識がない私が、地球温暖化などと決めつけることは許されませんが、先人たちから受け継いだ埼玉の地を、未来に少しでも住みよい地として受け継いでいく一助となれるよう、環境に負荷がかからない事業活動に、工夫をこらしていきたいと思えます。

さて、令和二年度は、9遺跡の発掘調査を行いました。前年度に引き続き、調査を進めた行田市北大竹遺跡では、古墳時代から飛鳥時代に及ぶ大規模な祭祀場から、大量の土器や石製模造品、

金属製品が出土しました。それらの中には、大刀の柄頭を環状にして、その内部に鳳凰をあしらった単鳳環頭大刀とよばれる金銅装の大刀がありました。祭祀場から出土することは、大変珍しく、注目されます。

さらに、令和元年度までに行った調査の整理作業を13件行い、成果をまとめた報告書を6冊刊行しました。調査報告書の刊行は、埋蔵文化財を、後世に向け「記録・保存」し、後世にいにしえの記憶を伝えていくものです。

また、埋蔵文化財を活用した学習支援等の事業も積極的に実施しています。

小中学校の授業において、実物の土器や石器に触れる機会を提供する「古代から教室へのメッセージ」事業、発掘調査の成果をいち早く公開する「遺跡見学会」、大型商業施設などにおいて埋蔵文化財を展示する「ほるたま展」など、いずれも新型コロナウイルスの感染予防に留意しながら、無事に開催することができました。御協力いただきました関係の皆様には、心より御礼申し上げます。

このほか、博物館や市町村で実施される各種講座への職員派遣や、自治体職員の研修受入れなど、文化財保護に係る普及啓発、人材育成支援にも取り組んでいるところです。

本書は、当事業団が令和二年度に実施しました事業の概要をわかりやすくまとめたものです。多くの皆様には、研究や学びの参考として御活用いただけましたら幸いです。

令和三年八月

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長 依田 英樹





表紙 北大竹遺跡 遺物集中地点（行田市）

# 目次

## I 令和二年度に調査をした遺跡

北大竹遺跡（第18次）行田市	1
北尾崎北遺跡（第3次）羽生市	6
上新郷遺跡（利根川堤防地区）（第2次）羽生市	8
道原遺跡（第1次）羽生市	10
平右衛門遺跡（第2次）（その1）鴻巣市	11
平右衛門遺跡（第2次）（その2）鴻巣市	13
新井堀の内遺跡（第2次）蓮田市	14
本田遺跡（第2次）加須市	15
富田庚申塚遺跡（第7次）寄居町	16

## II 令和二年度に刊行された報告書

## III 発掘資料の保存と活用

一 保存・活用事業（埼玉県収蔵埋蔵文化財保存活用業務委託事業）	18
二 その他の啓発・普及事業	20

## IV 事業団の概要

一 設立の趣旨と目的	23
二 略沿革	23
三 組織の概要	23



# きたおおたけ 北大竹遺跡（第18次） 行田市



## 「立地と環境」

北大竹遺跡の周囲は、ほぼ平坦な地形であるが、関東造盆地運動と利根川などの河川氾濫によって起伏に富んだ旧地形が、埋没している。

行田市内の遺跡は、古墳時代になると急速に増加するが、古墳は少なく、鴻巣市（旧吹上町）の袋・台遺跡で中期の円墳がみられる程度である。しかし、全長120mの前方後円墳であり、「辛亥年」の紀年銘などを刻む金錯銘鉄剣が副葬された稲荷山古墳が中期後半に造営されると、以後、約100年にわたり埼玉古墳群が形成された。

後期には築道下遺跡や小針遺跡といった大規模な集落遺跡が現れるとともに、佐間古墳群、斉条古墳群、酒巻古墳群などの古墳群が造営され、北大竹遺跡と深く関連する若小玉古墳群もこの時期から造営が開始された。

この若小玉古墳群には、終末期古墳である八幡山古墳、地蔵塚古墳が残る。八幡山古墳は昭和九年（1934）の小針沼干拓事業で土取りされ、墳丘が崩されたが、複室構造の横穴式石室が構築されている。また地蔵塚古墳は、埼玉県で唯一、石室に線刻壁画が描かれている。

奈良・平安時代には武蔵国埼玉郡に属し、高畑遺跡、原遺跡、内郷遺跡、船原・内郷通遺跡、

八ツ島遺跡、馬場裏遺跡、柳坪遺跡、小敷田遺跡、築道下遺跡、小針遺跡などの集落が形成された。特に小敷田遺跡では、出峯に関する木簡、小針遺跡では「丈部鳥麻呂」と線刻された紡錘車が出土した。

## 「発見された遺構」

今回の調査では、古墳時代・飛鳥時代の竪穴住居跡50軒、土壇30基、井戸跡2基、溝跡5条、杭列1条、遺物集中地点4カ所、奈良・平安時代の竪穴住居跡8軒、掘立柱建物跡2棟、土壇2基、溝跡2条、鍛冶炉跡1基、杭列1条、中世から近世にかけての土壇1基などが発見された。

### A区

#### 古墳時代

検出された遺構、遺物はいずれも後期である。竪穴住居跡は14軒検出され、カマドの向きは多くが西向きであり、軸方向も概ねそろっている。

また、住居跡の分布域外に井戸跡が集中する。

#### 飛鳥時代

A区から竪穴住居跡が5軒検出された。飛鳥時代の住居跡はいずれも掘り込みが深く、遺存状態は良好であった。いずれも北東にカマドを築いている。A区第19号竪穴住居跡からは7世紀末から8世紀初頭とみられる湖西窯跡産の須

A区第2号住居跡 カマド周辺の土器



惠器高台付碗が出土しており、湖西窯跡との繋がりを持っていたことが窺える。

#### 奈良時代・平安時代

奈良時代・平安時代の竪穴住居跡は3軒検出

- 所在地  
行田市若小玉字枳 1900-1 他
- 実施期間（事業者）  
令和元年10月～令和2年10月（埼玉県）
- 調査面積  
5,280㎡
- 遺跡の種類  
集落跡
- 主な遺構  
古墳（住居跡50・土壇30・井戸跡2・溝跡5・杭列1・遺物集中4）  
奈良・平安・中世（住居跡8・建物跡2・溝跡2・土壇2・鍛冶炉跡1・杭列1）





B区遺物集中地点

された。掘り込みが深く、遺存状態は良好であった。また、遺物も多く出土した。A区第2号住居跡のカマドは、遺存状態が極めて良好であり、粘土によって構築されたソデや天井部が崩落せずに残っていた。カマドの両脇には浅い掘り込みが認められ、柵状施設と考えられる。墨書土器や円面硯、鉄製品などが出土した。

また、鍛冶炉跡が1基検出された。飛鳥時代の竪穴住居跡を壊して構築されており、奈良時代か、平安時代以降と推定される。

#### 中世・近世

中世の遺物が出土した遺構は確認できなかったが、A区第1号溝跡は暗灰色粘土であり、中世に属する可能性はあるが、詳細は不明である。

#### B区

#### 古墳時代・飛鳥時代

A区と同様に、古墳時代の遺構、遺物はほとんどが後期の時期に属する。竪穴住居跡が15軒検出された。調査区幅の関係からカマドや壁溝、貯蔵穴、柱穴が良好に残存していた。また、遺物も多く出土した。

井戸跡が複数検出され、上幅が約1.5mで深さは2m近くもみられた。

調査区中央やや東寄りに上幅約7m、深さ約1.5mの断面逆台形の古墳時代後期の大溝が検出された。この大溝を境として、南東に竪穴住居跡が多く検出され、北東に遺物集中地点が複数箇所確認された。

B1区の南東に検出された遺物集中2は、6世紀後半頃を中心とした遺物が出土した。幅約10mに大量の土器や石製模造品、鉄製品などが重なるように出土した。

なかでも特筆すべきは、金銅装単鳳環頭大刀の柄頭である。埼玉県内では、行田市の埼玉







金銅装単鳳環頭大刀の柄頭

將軍山古墳の金銅装三葉環頭大刀、皆野町の稲荷塚古墳の銀象嵌裝單鳳環頭大刀、加須市の樋遣川古墳群の金銅装單龍環頭大刀に次ぐ4例目となる。

なお、同種の大刀が伝世品などを除き、発掘調査によって古墳以外から出土したのは、奈良県天理市に所在する石上神宮禁足地と神奈川県海老名市の本郷遺跡に次いで全国3例目となる。ただし、本郷遺跡の事例は、平安時代の包含層からの出土であることから、北大竹遺跡のような祭祀跡の出土は、石上神宮禁足地に次いで全国2例目の事例となる。

B1区北西の遺物集中3では、須恵器の大甕が複数個体出土し、その周囲から小型の土器や石製模造品が出土した。なお、遺物集中2と遺物集中3の間に遺物の出土はほぼ見られなかった。

また、B2区の北側にも大量の遺物（遺物集中1）が出土した。複数個体の須恵器大甕が、正位で据えられていた。その中には、それぞれ子持勾玉や鉄製円板、石製円板のセット、石製模造品10点が出土した。

他にも土器の中に、子持勾玉と白玉が重なって収められた状態で出土した。さらに、銅鏡（海獣葡萄鏡）や直刀、鉄鏃といった金属製品が出土したことも特筆される。

B2区北東端では、現地表下0.5mの浅い場所から古墳時代後期の遺物が大量に出土した（遺物集中4）。しかし、この遺物集中の下層に

子持勾玉と白玉が収められた土師器の食器



火山灰（ash）を確認したことから、平安時代以降の堆積土に混入した遺物と考えられる。多くが破片資料であり、中世以降の河川洪水などの要因により巻き上げられたのであろう。

なお、北西側に隣接するB1区でも、上層に洪水砂が確認されており、その下層から遺物が集中して出土した（遺物集中2）。この地点では遺物を含む黒色土層は洪水による破壊を免れていた。しかし、A区では、北東部が河川の浸食によってローム面まで削られていた。この洪水は肥前磁器碗の出土から近世と想定される。





海獣葡萄鏡

北大竹遺跡は、平成二年（1990）の第1次調査から行田市教育委員会によって断続的に調査が行われてきた。遺跡は長野落し北側の台地上に展開しており、これまでの調査によって、旧石器時代や縄文時代の遺物もわずかだが確認されているが、本格的に集落が開くのは古墳時代前期からである。その後、後期初頭頃に小型の円墳が築かれ始めて若小玉古墳群の築造が開始され、後

「まとめ」

このことから調査区外の地点では、古墳時代の遺物ごと近世の洪水で流された可能性が想定される。これらの遺物集中は、遺物集中4以外、いずれも祭祀跡であったとみることができ。遺物集中2は、6世紀後半頃、遺物集中3は、7世紀前半頃、遺物集中1は、6世紀末から7世紀中頃を中心とした時期である。この間、約100年にわたって祭祀行為が執り行われていたといえよう。

奈良時代・平安時代・中世

奈良・平安時代や鎌倉時代以降の遺構は少ない。奈良時代の竪穴住居跡は、1軒である。時期は8世紀初頭頃とみられる。

平安時代の竪穴住居跡は2軒検出された。時期は8世紀後半頃である。他には、溝跡や土壙

がみられる。B区第4号溝跡は、東西方向に延びており、覆土中から布目瓦が2点出土した。中世の遺構は土壙が1基検出された。

C区

古墳時代

古墳時代の竪穴住居跡は16軒検出された。6世紀中頃から認められるが、6世紀後半の時期が最も多い。また、第3号井戸跡や第5号井戸跡から大量の土器が出土しており、集落が営まれていた時期に投棄された可能性がある。

奈良時代・平安時代

奈良時代・平安時代の竪穴住居跡は2軒検出された。C区第15号竪穴住居跡は、8世紀前半頃、第16号竪穴住居跡は9世紀初頭頃である。

奈良・平安時代の時期には、古墳時代後期と比べ竪穴住居跡が減少し、散在的な分布となる。

須恵器の大甕



期前半には墳長約70mの三宝塚古墳が築造された。三宝塚古墳の下には前期から古墳築造の直前まで集落が展開していたが、古墳築造の際に集落が移ったことが確認されている。

今回の第18次調査地点は、現在は平坦な地形

であるが、遺跡南西側は、これまでの調査地点よりもやや低い地形となる。いわゆる関東造盆地運動によってローム台地が沈降し、また河川の氾濫土などが堆積したことで、現地形となった。





子持勾玉出土状況

古墳時代の遺構確認面は、現地表から約2m下となる。ローム面直上には黒色土が堆積しており、この面から古墳時代の遺物が出土した。古墳時代の遺構もこの面から掘りこまれていた。この黒色土の上層には青灰色の粘土層が堆積しており、上面には天仁元年（1108）の浅間山の降下火山灰（AsG）が確認された。この青灰色粘土層及び火山灰層の上層には暗褐色土が分厚く堆積していた。中世から近世にかけての洪水による堆積層とみられ、かわらけや染付磁器などを少量ながら含んでいた。

北大竹遺跡第18次調査で検出された祭祀跡で最も特筆すべきことは、子持勾玉の出土数である。これまで国内の遺跡発掘調査によって出土した事例は、多くても一桁程度であったが、北大竹遺跡では、合計44個が出土した。一つの遺跡からの出土数としては、全国最多を誇る。また、いずれの時期でも須恵器の大甕をはじめとした甕類が多数、正位に据えた状態で出土した。このことから、子持勾玉と須恵器の大甕を中心な祭具とした祭祀が、長期間、執り行われていたとみることができよう。北大竹遺跡

の祭祀の性格は、他の祭祀遺跡との比較や文献史料などの検証から慎重な検討が必要である。その他の地点では、B区の調査区中央やや東寄りから古墳時代後期の大量の遺物が出土された。この大溝を境に北西側では大量の遺物が出土しており、南東側では竪穴住居跡が多く検出された。集落域と祭祀場の区画としての性格を持つ溝であった可能性が考えられる。

A区では、飛鳥時代の竪穴住居跡が複数検出された。竪穴住居跡は重複して検出されており、古墳時代後期の竪穴住居跡が多いが、飛鳥時代、奈良時代や平安時代の竪穴住居跡も検出された。長期間にわたって集落が形成されていたことがわかった。

ところで、近隣に位置する若小玉古墳群は、ほとんどの古墳が削平され現存していない。しかし、行田市教育委員会によるこれまでの発掘調査によって、多くの古墳が6世紀代以降に築造された可能性が高いと指摘されている。この時期は、遺物集中2において出土した大量の遺物の時期と同時期である。また、現存する県指定史跡の八幡山古墳と地蔵塚古墳は、7世紀前半頃から中頃にかけて築造された終末期古墳であり、遺物集中1の時期と合致する。今回の発掘調査で得られた成果は、これらの古墳の被葬者と祭祀を執り行った人物やその一族との関連を想定させる内容であった。



子持勾玉が入った須恵器の大甕



## 北尾崎北遺跡（第3次）羽生市

## 「立地と環境」

北尾崎北遺跡は、羽生市大字尾崎字北尾崎地内の遺跡である。遺跡の北側を利根川が東流しており、標高は約17mである。遺跡は加須低地の北辺に形成された自然堤防上に位置し、その

表層地質はすべて沖積土である。周囲は河川が入り組み複雑な地形となっている。

遺跡の周辺は、奈良時代に集落の規模が縮小する傾向があるが、平安時代に再び拡大する。

鎌倉時代には、『吾妻鏡』にある「八条院領武蔵国太田荘」に属したと考えられ、堤防修復や開墾の記事がみられる。室町時代以降は後北条氏の勢力下に置かれた。

近世には、徳川幕府が行った利根川東遷事業の影響を大きく受けた。元和七年（1621）に、北尾崎北遺跡から約5km上流の羽生市上新郷で会の川が締め切られた。また、天保九年（1838）には、下流で合の川と浅間川が締め切られた。なお、上新郷には、日光脇往還における利根川の渡船場として川俣関所が置かれ、交通の要衝として人と物の往来が盛んに行われていた。

## 「発見された遺構」

## 古墳時代

性格不明遺構1基を検出した。底面は被熱により焼土化し、炭化物が全面に堆積していた。出土した埴輪片が、焼土の上に据え付けられたように見えることから、埴輪窯跡の可能性も考えられる。

## 平安時代

竪穴住居跡は19軒検出した。住居跡の平面形は、一辺が4m程度の方形である。硬化した床面はほとんど確認できなかった。竪穴住居跡の形状や出土遺物から、9世紀後半から10世紀後

半と考えられる。

土壇は、調査区の中央から東部にかけて多く分布し、竪穴住居跡との重複は少なかった。長方形の土壇は、長辺1〜2m程度の大きさと浅いものが多いが、長辺3m前後、深さ1m前後の大型の土壇も検出されている。出土遺物から10世紀代と考えられる。

## 中世

溝跡は、南北方向と、東西方向のものが検出された。深さ0.5m未満の溝跡は断面がU字状で、深さ0.5m以上のものは葉研堀であった。14世紀後半から15世紀後半と考えられる。

土壇の形状は長方形と円形である。方形の土壇は、長辺1〜2mで浅いものが多い。14〜15世紀代と考えられる。

井戸跡は、3基が素掘りの井戸で、直径が1メートル程度の円形である。陶器片が出土した。また1基は、他の3基と異なり、平面形が方形である。下層に約一辺80cmの井戸枠を検出した。井戸枠は、四方に縦板を打ち込み、内部に木枠をおき、土圧で縦板が内側に倒れないよう保持されていた。出土遺物から中世末から近世初頭頃と考えられる。

第1号墓跡は、上部の石組みと石敷、石敷の下層を調査した。石敷は、径5cmの砂利を主体に隙間を砂で充填されていた。砂利を取り除くと一辺3.5m、深さ約1mで方形の掘り込みを検出した。石敷の中心部からは、刃先を下に向け突き刺した状態で小刀が出土した。この石組と石敷きは、墓跡に関連した構造物の基礎の

方形の井戸跡



可能性が考えられる。

また第19号墓跡は、板石塔婆が倒れた状態で出土した。掘り込み中央部が円形に窪んでおり、人骨もしくは蔵骨器を納めた可能性がある。

茶毘跡は1基検出された。被熱の形状からT字形の茶毘跡と推定される。

## 近世

溝跡が5条検出された。調査区の東端部にま

- 所在地  
羽生市字尾崎小字北尾崎 980-1 他
- 実施期間（事業者）  
令和2年4月～令和2年9月  
（国土交通省関東地方整備局）
- 調査面積  
10,249㎡
- 遺跡の種類  
集落跡
- 主な遺構  
古墳（性格不明遺構1）  
平安（住居跡19・土壇47）  
中世（溝跡10・土壇12・井戸跡4・茶毘跡1）  
近世（溝跡5・埋桶1）





第1号墓跡

「遺物の種類と数量」

平安時代の遺物は、土師器杯、埴、甕、須恵

とまっております、いずれも断面形はU字状であり、深さは0.5m未満であった。北東から南西へ走向する。溝跡の東側に、遺物や遺構が検出されず、居住域を区画する施設と考えられる。出土遺物は16〜17世紀代であった。

埋桶が1基検出された。上部は削平されており、底板と側板の一部が残っていた。17世紀以降と考えられる。

器杯、灰釉陶器、緑釉陶器などが出土した。埴は、高台が付く10世紀代の土器である。土師器甕は、口縁部が「く」の字状に屈曲する。灰釉陶器と緑釉陶器の皿が出土した。

中・近世の遺物は、瀬戸焼、常滑焼のほか、在地産の内耳鍋、かわらけなどが出土した。

このほか、板石塔婆、砥石などが出土した。板石塔婆は、残存部分の形状や規模から、14世紀後半から15世紀代と考えられる。上面を柱の形に窪めた加工品や自然石、石造物を転用した礎石も出土した。

このほか、刀子や井戸杵が出土した。

「まとめ」

北尾崎北遺跡では、平安時代の集落と中世の集落が検出された。

平安時代の集落は、9世紀後半から10世紀後半にかけての竪穴住居跡のみで構成されていた。

出土遺物は、武蔵国内の特徴を示す土師器の他に常陸国内の特徴を示す土師器も出土した。利根川流域で調査された他の遺跡でも見られる特徴で、武蔵国に隣接する上野国、下野国あるいは常陸国などとの密接な交流が窺える。

中世の遺構は、墓跡、土壇、溝跡などがみられた。溝跡は、東西方向と南北方向に大別され、直交または並行していた。調査区中央部には、方形に溝跡が巡り、その内側に建物の柱穴跡が多数検出された。

出土遺物は、青磁、常滑焼、瀬戸・美濃焼などの陶磁器である。常滑焼には甕や摺鉢のような大型の器種が出土し、瀬戸焼では皿など小型の器種が出土した。また、在地系の壺や鉢も出土した。



遺跡全景



かみしんごう  
上新郷遺跡（利根川堤防地区）（第2次）羽生市

「立地と環境」

上新郷遺跡（利根川堤防地区）は、羽生市上新郷に所在する。

新郷地区は、利根川と会の川に挟まれた沖積地にあり、自然堤防、河畔砂丘が発達し、その周囲に後背湿地が広がっている。付近の標高は約19mである。『家忠日記』の、天正十九年

（1591）十月二十一日条に「新郷市日を百塚に新市を立て」の記述がみられ、上と下に分離したのは中世と考えられる。

近くの字名に横塚・百塚の地名がみられるように、古墳が多く築かれている。

『新編武蔵風土記稿』によれば、新郷は太田庄忍領に属する。戦国時代は成田氏の支配下にはいり、徳川家康の江戸城入城とともに松平家忠の居城となった忍城の属領となつたが、その後天領、旗本領になるなどの変遷があつた。

この新郷川俣関所は、利根川渡河点に置かれた関所である。武蔵国上新郷村と上野国川俣村には、17世紀初頭から渡船場があつた。設立当初は、関守四家が忍藩から関所番士を命じられたが、天領になつた後は関所も直轄地となり、忍藩の預番士が明治二年（1869）の関所廃止まで勤めた。『増補忍名所図絵』、『新編武蔵風土記稿』によると、利根川から土手を登り切った高台に関所が設けられ、川側と上新郷宿方面へ向かう道側の2箇所に木戸が二門、本番所、見張り番所が置かれていた（次頁参照）。新郷川俣関所関係の文書および関連資料は、埼玉県指定有形文化財である。

ところで、遺跡の中央を南北に走る道路は、江戸時代を通して街道と

して機能してきた「日光脇往還」である。八王子千人同心が第三回の勤番以降に使用した。また、この道筋は、中山道箕田追分（鴻巣市）から分岐して北上し、行田市の佐間から「日光脇往還」とも呼ばれて館林へ至ることから、「館林道」とも呼ばれている。

なお、武蔵側の最後の宿駅として、当該遺跡から約1km南に上新郷宿がある。『館林通見取図』には、上新郷宿を出て、愛宕社前の鍵の手を北進すると街道西側に並木道が描かれ、その先には地藏堂の表記がある。

上新郷遺跡は、利根川堤防付近から南におよそ340m、街道の両側に東西約100mにわたって広がっている。第1次調査では、便宜上北側をA区、南側をB区とし、第2次調査では、北側をC区、南側をD区として調査を実施した。

「発見された遺構」

第一面

利根川の堤防の直下にあたる。道路に沿った東側がやや高く、西へ向かって緩やかに傾斜する。土壇60基、溝跡9条、ピット51基が検出された。調査区のほぼ中央に南北方向に伸びる溝跡が検出された。この溝跡を境に、調査区東側は、方形ピット群、円形・不定形の土壇が多数検出された。方形ピット群は、建物の柱穴と考えられる。調査区西側では、東西・南北方向に溝が列になって確認された。畝間の溝跡と考えられる。出土遺物は、江戸時代末の遺跡が中心であつた。

第二面

土壇60基、井戸跡2基、溝跡3条、ピット30基が検出された。井戸跡は、廃絶後の凹地に桶

- 所在地  
羽生市上新郷 7175-1 他
- 実施期間（事業者）  
令和2年10月～令和3年3月  
（国土交通省関東地方整備局）
- 調査面積  
1,645㎡
- 遺跡の種類  
集落跡
- 主な遺構と遺物  
近世・第一面（土壇60・溝跡9・ピット51）  
近世・第二面（土壇60・井戸跡2・溝跡3・ピット30）  
近世・第三面（土壇5・井戸跡5・溝跡2・ピット50）



第1号土壇 遺物出土状況



樽の一部、箸などが廃棄されていた。  
遺構の時期は、江戸時代後期である。

### 第三面

第三面からは、土壙5基、井戸跡5基、溝跡2条、ピット50基が検出された。江戸時代後期以前と考えられる。

### 「遺物の種類と数量」

第一面では、近世〜近代初頭にかけての陶磁器類、瓦、木製品、土製品、石製品、金属製品、銭貨、ガラス製品が出土した。陶器類は、播鉢・甕類などの大型製品が目立つ。

第二面では、建築部材の一部や木製品および漆器、京・信楽産の小碗、焙烙などの素焼きの在産土器、肥前産磁器、石製品、銭貨が出土した。石製品では、砥石、石臼、磨石、金属製品は煙管、建具の飾り金具等が出土した。

木製品は、樽、桶、曲げ物、箸、漆器類は、椀物の身、蓋がみられた。

第三面では、陶器の小片が出土した。なお、洪水堆積土中から古墳時代の広口壺の破片が出土した。

### 「まとめ」

上新郷遺跡（利根川堤防地区）第2次調査では、三面の遺構確認面について発掘調査を実施した。

第一面は、江戸時代末期（19世紀後半）の遺構・遺物が検出された。調査区のほぼ中央には、第9号溝跡があり、羽生市の工事立会調査で検出された溝跡の延長と考えられる。農地と住空間とを分ける区画の溝である。溝の東側は、建物に関連する土壌が集中して検出された。第1号土壙は、多量の被熱した土壁片や炭化した建

材片が出土した。第37・38号土壙は、突出部のある凹形土壙で、底面から立ち上がりまでの壁面全面が強い焼成を受けていた。箱型に掘り落としした長方形の砂を充填した土壙が多数検出された。洪水堆積砂の災害復旧痕である可能性がある。西側には、並行する溝列が南北軸、東西軸と重なって検出された。断面形状と遺構の配置から、畝間の溝跡と推定される。

第二面は、18世紀後半の遺構・遺物が検出された。街道脇の調査区北東側に柱穴の集中を検出した。また、生活廃材を遺棄したと考えられる不定形の土壙も多数検出された。D区第11号溝跡は、第1次調査B区で検出された農業用水路に並行する溝跡の延長である。出土する遺物は、18世紀半ばから後半にかけての特徴をよく表していた。

また、瓦や焙烙は、その胎土などから近隣の行田市荒木や利根川対岸北西の館林市小泉で生産された土器の特徴を備えていた。方形柱穴は『館林道見取絵図』中で5棟の建物が描かれている範囲にほぼ該当していた。その南側の遺構の希薄な範囲は、絵図の空隙部分とほぼ重なっていた。

第三面は、調査区西側のほぼ3分の2であり、厚さ20cm内外の黒褐色土の均質な堆積が広がり、全体に斑鉄が認められ、沼沢地あるいは田地であったと考えられる。北東の一画、およそ10m四方の範囲には、方形ピット群が多数検出された。第二面のピット集中範囲は柱を伴う建造物の、少なくとも2回以上の建て替えが推定される。

### 【新郷川俣関所】

新郷川俣関所は、元は、武蔵国の新郷と上野国の川俣を結ぶ渡船場で、幕府により16の定船場の一つに定められた。元和年間（1615〜1623）から関所としての役割を担っていたとされる。設置当初は、百姓番が置かれていたが、後に忍藩から足軽と定番が派遣されるようになった。定番を担った番士家は石川、佐藤、大藤、橋本の四家で、上新郷に居住し、代々関所番士を勤めた。

『増補忍名所図絵1』新郷川俣御関所（国立公文書館蔵）





# 道原遺跡（第1次）羽生市

## 「立地と環境」

道原遺跡の北側には、利根川が東に流れる。加須低地の北辺に形成された自然堤防上に遺跡は立地する。なお、北尾崎北遺跡は道原遺跡の下流約400mである。

古代には、利根川流域に集落が点在し、北尾崎北遺跡、米の宮遺跡、茂手木遺跡で集落が形成された。

鎌倉時代には、「八条院領武蔵国太田荘」に属した。室町時代以降は後北条氏の勢力下となった。

近世には、徳川幕府の利根川東遷事業の影響を大きく受けた。元和七年（1621）に、羽

生市上新郷で会の川が締め切られ、南方を流れる川は廢川となった。また、上新郷に日光脇往還の関所が置かれ、交通の要衝として人や物資の往来が盛んであった。

## 「発見された遺構」

道原遺跡の調査では、平安時代と近世の遺構が検出された。

### 平安時代

竪穴住居跡2軒が、調査区東部に重なって検出された。近世の遺構と重複し、規模を明確にできなかった。出土遺物は、9世紀後半から10世紀代であった。

また、土師器、須恵器、灰釉陶器の破片が、およそ20m四方の範囲に集中した遺物包含層を抽出した。

### 近世

土壌が116基検出された。土壌の形状は円形または方形が多かった。小型の土壌は調査区の東部に集中し、大型の土壌は西部に分布していた。大型の土壌は、粒子の均一な砂が堆積し、土壌底面に凹凸が多かった。砂を集積した復旧坑の可能性が考えられる。一方、小型の土壌の一部は、埋桶の抜き取り痕跡と考えられる。18世紀後半から19世紀の出土遺物があった。18井戸跡は、素掘りの井戸で直径1m程度である。

中には、方形に深さ0.5mの掘り込み、底部に2本の丸太を置き板を乗せた木組みを設けた井戸があった。その木組みの下部には、竹の

筒が垂直に刺してあった。18世紀末から19世紀と考えられる。

溝跡が25条検出された。幅1m以上、深さ0.5m以上となる薬研堀の大溝跡が複数みられた。調査区の西側に集中し、南北方向に延びる溝跡と北から西へL字に曲がる溝跡を検出した。溝跡よりも東側では、木杭が打ち込まれていた。この木杭の間隔は1間（約1.8m）であり、門跡と考えたい。このことから大溝跡は、屋敷地を囲む堀と考えられる。

さらにカマド状遺構が9基検出された。円形の燃焼部長方形の張り出しが接続し、鍵穴状となっていた。燃焼部の壁面は、被熱により赤色化し底面には炭化物が堆積していた。張り出し部は被熱は少なく、底面には炭化物が堆積していた。

埋桶が1基検出された。底板と側板の一部が残っていた。18世紀末から19世紀と推定される。

## 「遺物の種類と数量」

平安時代の遺物は、須恵器の製作技法を用いたロクロ成形の土師器が出土した。碗は高台が付く。土師器甕は、口縁部が「コ」の字状に屈曲する。灰釉陶器は、皿と考えられる。

近世の遺物は、陶磁器類が主体で、産地は瀬戸焼・肥前焼などであった。土器類は、在地産の焙烙、かわらけなどが出土した。

石製品は、板石塔婆、砥石などが出土し、板石塔婆には蓮台がみられる。金属製品は、キセルなどが出土した。

## 「まとめ」

道原遺跡の発掘調査では、平安時代と近世の集落が発見された。

平安時代の遺構は9世紀から10世紀頃の竪穴住居跡が2軒のみであった。隣接する北尾崎北遺跡では、出土遺物が土師器主体であったが、道原遺跡では須恵器の占める割合が高かった。

近世の遺構は土壌、溝跡がみられた。遺構は東側に集中しており、西側は溝跡を挟んで遺構密度が減少していた。カマド状遺構は、長期間使用されていた痕跡に乏しく、必要に応じて構築された可能性が高い。

遺物包含層



- 所在地  
羽生市稲子道原 1331 他
- 実施期間（事業者）  
令和2年10月～令和3年3月  
（国土交通省関東地方整備局）
- 調査面積  
3,427㎡
- 遺跡の種類  
集落跡
- 主な遺構  
平安（住居跡2・遺物包含層1）  
近世（土壌116・井戸跡9・溝跡25・カマド状遺構9・埋桶1）



# へいえもん 平右衛門遺跡（第2次）その1 鴻巣市

## 「立地と環境」

平右衛門遺跡その1は、鴻巣市箕田に所在し、標高は約16mの大宮台地上の遺跡である。

平右衛門遺跡の周辺は、古墳時代になると遺跡数が急激に増加し、宮前本田遺跡、大間原遺跡、馬室小校庭内遺跡、赤台遺跡、新屋敷遺跡、

中三谷遺跡等で前期の集落がみられる。また、後期になって箕田古墳群や新屋敷遺跡で大規模な古墳群が形成された。なお、生出塚遺跡や馬室埴輪窯跡では埴輪窯が開窯された。生出塚遺跡は住居跡、埴輪窯跡、工房跡、粘土採掘坑等が検出された工人集落である。埴輪は周辺の埼玉古墳群や笠原古墳群に供給されたことが明らかにしている。

奈良・平安時代になると、遺跡

数が減少するが、古墳時代の集落が継続して、宮前本田遺跡や赤台遺跡、中三谷遺跡等で集落が認められる。赤台遺跡では8世紀前半の竪穴住居跡が検出された。

中・近世の遺跡としては、箕田地区の箕田館跡や糠田地区の安達館跡のほか、大間地区の（伝）源経基館跡等がみられる。箕田館跡推定地である九右衛門遺跡では、大型の堀跡や中世陶磁器類が多量に出土した。

また、中三谷遺跡ではコの字状に巡る堀跡が、新屋敷遺跡では二重の堀跡が見つかっており、中世の館跡と推定された。

このほか、平右衛門遺跡に近い宮前本田遺跡では、中近世の掘立柱建物跡や井戸跡、地下式墳、溝跡などから周辺に館跡の存在が推定されている。

①区 第1～4号住居跡



(上) 直角に屈曲する溝跡 (下) 中山道に平行する堀跡



## 「発見された遺構」

### ①区

①区は中山道に面した北側にあり、地形的には、中山道を頂点にして、北側に向かって緩やかに傾斜している。

中山道をほぼ分水嶺に、その南側は荒川に向かって緩やかに降っている。遺構の分布密度は非常に濃く、竪穴住居跡は数軒重複する例もあるが、極端に集中する箇所はみられなかった。

古墳時代後期（終末期）の7世紀後半から平安時代中期の9世紀後半まで集落が営まれたと考えられ、特に奈良時代初頭を前後する7世紀末葉～8世紀前半頃の住居跡が多数を占め、この時期に集落が急速に拡大したことがわかる。

8世紀後半～9世紀前半には集落規模は著しく縮小し、9世紀後半にも小規模な集落が維持されるようだ。

中世では、直角に屈曲する第18・19号溝跡から、龍泉窯産の青磁の破片が出土した。全容は不明であるが、館跡の堀跡となる可能性もある。また、調査区南端に中山道に平行する堀跡が検出された。規模は幅約2・7m、深さ1・8mで、長さ約24mにわたって直線的に延びていた。中世に遡る可能性がある。

- 所在地  
鴻巣市大字箕田 3742 番地 1  
他
- 実施期間（事業者）  
令和2年4月～令和3年3月  
（国土交通省関東地方整備局）
- 調査面積  
3,695㎡
- 遺跡の種類  
集落跡
- 主な遺構  
古墳（住居跡7）  
奈良・平安（住居跡21・井戸跡9）  
中世（井戸跡5・溝跡4・柵列1・ピット約50）  
近世以降（土壇86・溝跡54・井戸跡10・地下式坑1・畝状遺構69・ピット約380）  
不明（土壇2・井戸跡1）







# へい えもん 平右衛門遺跡（第2次）その2 鴻巣市

## 「立地と環境」

平右衛門遺跡その2は、その1の西に隣接する遺跡である。

## 「発見された遺構」

平右衛門遺跡は、令和元年度に引き続き調査が実施された。古墳時代後期、奈良・平安時代、中・近世の遺構群が発見され、より広範囲にわたる遺跡であることが確認された。遺跡の南側である旧中山道側は高く、北側に向かって緩やかに傾斜している。調査区には攪乱が多く、特に④A区、C区とした地点では調査区全体および、攪乱と攪乱の間に遺構が検出される状況であった。竪穴住居跡は調査区全体に分布しており、集落はより広がると予想される。

## 古墳時代後期

竪穴住居跡を②区で3軒、④区で11軒検出した。

②区第1号住居跡は調査区南東隅で、2軒の住居跡が重複して検出された。何れも検出できたのは全体の2分の1程である。主軸方位はほぼ同じで、ともに北西壁にカマドが設置されていた。土層観察やカマドの出土状況から内側に検出された住居跡が新しいと考えられる。④区第3号住居跡は縦8・8m、横8・5mの大型の住居跡である。壁溝が二重に巡っており、拡張したと考えられる。カマドは北西壁中央に設置され、補強材として使用した土師器甕が検出された。多くの遺物が出土し、須恵器坏、蓋、土

師器坏、高坏、甕等が見られた。

## 奈良・平安時代

竪穴住居跡は④区で4軒検出した。

第7号住居跡は調査区西端近くで検出した。近世と考えられる溝跡の一部が壊されていた。縦3・5m、横4・8mの長方形で、北壁の中央よりやや東寄りにカマドを設置し、柱穴は確認できなかった。遺物は須恵器坏や土師器坏の破片で全体的に少ない。

第8号住居跡は、住居跡中央を近世と考えら



④区 大型住居跡遺物出土状況

れる溝跡が大きく壊されており、北側と南側のコーナー周辺を検出したのみである。規模は縦5・4m、横5・1m程の方形と推定される。北側コーナー付近で須恵器坏がまとまって出土した。2枚又は3枚が重なった状態で、このうち2枚の坏に墨書が見られた。

掘立柱建物は④区で1棟検出した。大半が攪乱に壊されており、直線的に並ぶ3箇所の柱穴と、中央の柱穴の西側に柱穴を1箇所検出した。柱間は1・9から2・4m、柱穴の直径は0・7から0・9mである。総柱の建物跡の可能性が高い。

## 中・近世

土壙は調査区全体で検出され、規模は大小様々であり、一部の土壙は埋め戻された状況が見られた。

溝跡は④区で検出された。第1号溝跡は、令和元年度調査第24号溝跡から続き、南東から北西方向へ直線的に約70m延び、調査区外へ続く溝である。幅4・4から4・8m、深さ約1・3から1・5mの大溝である。底面は平坦で、江戸時代の遺物が出土した。第8号溝跡は、令和元年度調査第1号溝跡に続く溝跡である。幅1・7から2・3m、深さ約1・0mで、北に向かって浅くなる傾向が窺えた。溝に並行するようにピットが検出された。第12号溝跡は、幅1・1から1・

- 所在地  
鴻巣市大字箕田 3627 番地 1 他
- 実施期間（事業者）  
令和2年4月～令和3年3月  
（国土交通省関東地方整備局）
- 調査面積  
3,695㎡
- 遺跡の種類  
集落跡
- 主な遺構  
古墳（住居跡 14）  
奈良・平安（住居跡 4・建物跡 1）  
中・近世（土壙 109・井戸跡 6・  
溝跡 15・畝状遺構 6・ピット 193）

畝状遺構は、④B区のみで検出された。東西方向が多くみられるが、直交する南北方向も検出された。

## 「まとめ」

平右衛門遺跡第2次調査その2では、古墳時代後期、奈良・平安時代、中・近世の遺構・遺物を検出したほか、僅かではあるが旧石器時代の石器、縄文時代の土器等が出土した。

古墳時代後期の住居跡は遺跡内に広く分布し、令和元年度調査分と合わせると大規模な集落となる可能性がある。また、大型の竪穴住居跡が検出されたことも貴重な発見である。古墳時代後期から奈良・平安時代へ集落は継続する可能性がある。

中世以降の遺構（溝跡、畝跡等）は、畠作や宅地など周辺地域の土地利用や区画等を考える上で極めて重要な成果となった。



# 新井堀の内遺跡 (第2次) 蓮田市

あらいほりうち

## 「立地と環境」

新井堀の内遺跡は、大宮台地東側の白岡・黒浜支台東南部に立地する。遺跡の西側には元荒川が南東方向に流れ、小支谷が樹枝状に複雑に入り組んでいる。北側の低地とは、5 mから6 mの比高差がある。

遺跡は古くから中世の館跡とされており、付

近には「陣下」、「馬場」などの地名が残っている。これまで新井堀の内館跡・馬場堀の内館跡・黒浜堀の内館跡・野口氏館跡などの名称で呼ばれていた。遺跡の西側、宿下遺跡や、南側の黒浜耕地遺跡では、中世の溝跡が検出されており、新井堀の内遺跡との関連が考えられる。

また、周辺には、縄文時代の遺跡も数多く見られ、縄文時代前期の標識遺跡である国指定史跡黒浜貝塚や宿下遺跡では、集落跡が見つかっている。

## 「発見された遺構」

今回の調査で発見された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡や、中・近世の土壇、井戸跡、溝跡などである。

### 縄文時代

住居跡は、西側調査区の北東部に検出された。遺存状態は悪く、規模は径約4 mの楕円形であった。縄文時代中期の土器や石器が出土した。

### 中・近世

土壇は、出土遺物や堆積土の状況から、中・近世と判断した。そのうち、第31号土壇は東西約3 m、深さ約1 m、第39号土壇は東西約1・6 m、深さ約1・2 mと大型であった。地下式坑と考えられる。調査区中央に、多くの円形の土壇と柱穴が検出された。調査の結

西側調査区



果、これらの一部は東西方向や南北方向に並んでいた。土層の堆積状況からも、建物跡の柱穴と推定した。これを含め、調査区全体で最低4棟の掘立柱建物跡と1列の柵列跡を想定した。

井戸跡は2基検出された。第1号井戸跡は直径約2・5 m、深さ1・5 m以上で大型である。

溝跡は11条見られ、第5号溝跡は、南北長さ約7・4 m、東西幅約2・8 m、深さ約1・2 mで、直線的に走行していた。断面形は薬研状であった。溝跡の北部の両斜面に、計10本の柱穴が見られ、なかには、硬化した柱の設置痕跡が確認された。斜面の両側に相対して並ぶことから、橋状の施設の可能性がある。上層から出土した陶磁器は、18世紀前半であった。

第9号溝跡は、東側調査区で検出された大型の溝跡である。南北長約8・3 m、東西幅3・6 m、深さ約1・3 mである。南北に直線的に走行し、北側で北西に屈曲する。南側では2条の溝が並行するが、北側で合流し1条の溝となる。断面形は薬研状である。上層から陶磁器や焙烙が出土し、17世紀前半には埋没したと考えられる。

## 「まとめ」

縄文時代は、第1次調査に続いて竪穴住居跡が見つかったことから、縄文時代中期の集落跡が西側に広がることが明らかになった。

中・近世は、大規模な溝跡が見つかった点が特筆される。どちらの溝跡も、自然地形を平坦に削平した段切りが東側で確認された。土地の

造成と溝の掘削、建物等の建設が一体となって行われたと推定できる。

また、第5号溝跡は、北側の地割りに沿っており、館の範囲と土地区画の在り方が推定できる。第1次調査成果と合わせ、4条の大型の溝跡が明らかになった。

溝跡で区画された内側に数多くの柱穴を検出した。最低4棟の建物跡が造られていたと推定した。その南側は、空地となり、第1号井戸跡や第31号土壇（地下式坑）が造られていた。当時の館の景観を復元する上で重要な成果が得られた。

- 所在地  
蓮田市黒浜 1688-2A 他
- 実施期間（事業者）  
令和2年12月～令和3年3月  
（埼玉県）
- 調査面積  
938.38㎡
- 遺跡の種類  
城館跡
- 主な遺構  
縄文（住居跡1）  
中・近世（土壇82・井戸跡2・  
溝跡11・ピット170）



第5号溝跡



# ほんだ 本田遺跡（第2次） 加須市

## 「立地と環境」

加須市外野に所在する本田遺跡には、水塚の基礎である盛土が残る。

本田遺跡周辺では、加須市旧利根川堤防跡（大越地点）（外野地点）、加須市旧利根川堤防跡（大越地点）が発見され、また近世から近現代にかけて、河岸場や渡船場が数多く営まれていた。遺跡の北



第1号建物跡の基礎部分

西には、大越の渡船場と、その対岸の飯積の渡船場が設けられ、地域の一大拠点として舟運を司っていた。本田遺跡の北側には、利根川の川表に至る道が残っており、当時、この地域では公私ともに舟運が盛んだったことが窺われる。

「発見された遺構」

近世

今回の発掘調査では、水塚の盛土中に確認した第二面の遺構を調査した。礎石建物跡（第1号建物跡）の基礎部分、および性格不明遺構1基が検出された。

また、水塚の南側の蔵跡（第1号蔵跡）の下部において、蔵跡の基礎が検出された。

水塚は、当時の敷地北西部に位置する。水塚の西側は現在の県道60号に面する。

まず、水塚の盛土は、南北約30m、東西約20mである。この盛土は約1mの段差がある。盛土は茶褐色土を主体とした、ほぼ均一な土で盛り上げられている。盛土は、現況で約1.5mの高さである。

第1号建物跡は、東西4間（約7m）、南北2間半（約4.5m）の礎石建物跡である。第1次調査では、礎石の上位とその周囲に広がる石垣、石階段、排水溝等を検出したが、第2次調査では、建物跡の基礎地業を精査した。

第1号建物跡の基礎地業は、多量の石材と瓦を用いて頑強に造られていた。基礎地業は、盛土中から造られていた。基礎地業の内部には、礎石を設置する箇所を中心に、石材や瓦片を複

数回にわたって敷き、人頭大から約60cmの石材を積み重ねていた。これらは盛土とともに設置されていた。

性格不明遺構は、第1号建物跡の北西部に検出された。長方形の掘り込みは、長辺1.6m、短辺0.8mであり、瓦片が敷き詰められていた。

南側の第1号蔵跡は、基礎地業の上に並べられた石材全体の規模が、南北4間半（約8.2m）、東西2間半（約4.5m）である。この石材の下部には、布掘りを検出した。水塚の盛土を溝状に細長く掘り込み、内部に瓦片や石屑、土を互層状に入れて突き固めていた。蔵跡の基



第1号蔵跡

水塚の発掘調査は、久喜市指定文化財である吉田家水塚が、保存整備のための移築に伴う調査を実施されたが、久喜市栗橋関所番土屋敷跡などを除くと例がない。今回の発掘調査は、近世から近代の土木技術、および利根川の洪水に対する防災意識を知る上で、貴重な発掘調査例となった。なお、本田遺跡の水塚については、使用当時の「母屋」に関する民俗学的記録も残されている。

礎地業は、場所により規模や内容が異なっていた。

## 「まとめ」

本田遺跡第2次調査では、水塚の盛土と建物跡、蔵跡の基礎地業を調査した。発掘調査の結果、水塚の造成から建物の建築までの工程を明らかにできた。この水塚は、江戸時代後半から明治時代に、建物跡と盛土を一体に造ったことが明らかとなった。なかでも第1号建物跡は、基礎地業に多量の石材と瓦が用いられ頑強に造られていた。当時の土木技術と防災意識の高さを窺い知ることができる。

- 所在地  
加須市大字外野字本田 203-5
- 実施期間（事業者）  
令和2年4月～令和2年6月  
（国土交通省関東地方整備局）
- 調査面積  
591㎡
- 遺跡の種類  
屋敷跡
- 主な遺構  
近世（建物跡1・蔵跡1・盛土1・性格不明遺構1）



とみたこうしんづか  
富田庚申塚遺跡（第7次）寄居町

「立地と環境」

富田庚申塚遺跡は、寄居町大字富田に所在する。

周辺には、東に福泉坊遺跡、北西に赤浜遺跡と峯ヶ谷戸遺跡があり、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての遺跡が分布する。

富田庚申塚遺跡は、寄居町教育委員会・同遺跡調査会によって、これまでに、平安時代の竪穴住居跡などが見つかっている。

「発見された遺構」

今回の調査で発見された遺構は、縄文時代の土壙や、平安時代の竪穴住居跡、近世の土壙・溝跡などである。また、縄文時代から平安時代

にかけての遺物包含層が検出された。

縄文時代

東側の台地から谷へと緩やかに傾斜する斜面で、縄文時代後期の遺物包含層が検出された。東西約10m、南北約10mの範囲内に30cmから40cmの厚さで堆積しており、深鉢等の土器が出土した。

土壙は22基検出され、円形と隅丸長方形がみられた。なかでも、第15号土壙は、掘り込み面から底面にかけて断面形がプラスチック状に広がったいわゆる「袋状土坑」である。縄文時代後期の土器や土版、耳飾りが出土した。

隅丸長方形の土壙は、11基みつきり、南北方向に長軸をそろえ、東西方向に並んで分布していた。規模は、長軸約2m、短軸約1m、深さ

0.3mである。墓跡と推定される。

平安時代

竪穴住居跡が2軒検出された。第1号住居跡は、南側が近・現代の区画溝に壊されていたが、残されていた部分からカマドが2基検出された。北側のカマドは焼土や遺物は少なかったが、東側のカマドは覆土に焼土塊を多く含み、土師器の甕が出土した。東側のカマドが最後まで使用されたと考えられる。東側のカマドの南側には貯蔵穴があり、須恵器の高台付塊が出土した。寄居町の末野窯で焼かれた製品と考えられる。

ほかに土師器（環、甕、小型台付甕）、須恵器（環、高台付塊）、鉄製刀子が出土した。

第2号住居跡は、柱穴が確認されたが、カマドや貯蔵穴は確認できなかった。遺物は少なく、土師器や須恵器の小片のみであった。

縄文時代の遺物包含層の上に、このほかに平安時代の遺物包含層が検出された。

近世

溝跡が15条検出された。いずれも掘り込みが浅く、東西方向と南北方向に延びていた。区画溝と考えられる。

「まとめ」

今回の調査区は、富田庚申塚遺跡の南端であることから、過去の調査成果を踏まえると、今回の平安時代の竪穴住居跡の発見から、遺跡の広い範囲に集落が営まれていたことがわかった。

縄文時代の隅丸長方形の土壙群は、墓跡と推



第15号土壙 遺物出土状況



定されるが縄文時代後期の埼玉県内における検出事例は少なく、貴重な発見となった。

また、第15号土壙からは、700点にもおよぶ縄文時代後期の土器片や土製品などが一括して出土した。

ところで天正二十年（1592）、関東入りをした徳川家康によってつくられた「富田村帳」には、遺跡周辺の地名がいくつかが現在まで残っている。今後、発掘調査成果とこの文献の記載内容を照合していくことで、多数発見された溝跡の一部と、江戸時代の地割や耕作との関わりが明らかになる可能性がある。当時の地域の歴史が復元できる重要な成果となった。

- 所在地  
大里郡寄居町大字富田 626 番地
- 実施期間（事業者）  
令和2年7月～令和2年11月（埼玉県）
- 調査面積  
3166.07㎡
- 遺跡の種類  
集落跡
- 主な遺構  
縄文（土壙 22・不明遺構 1・ピット 4・遺物包含層 1）  
平安（住居跡 2・遺物包含層 1）  
近世（土壙 13・溝跡 15・ピット 1）



## II 令和二年度に刊行された報告書

発掘調査された遺跡の成果は、調査報告書としてまとめられます。その際には、バラバラに出土した破片を復元して元の形にするなどの地道な作業をします。これら一連の作業を「整理」と言います。調査報告書が刊行されて、調査は終了となります。今年度は6冊の調査報告書が刊行されました。



(資料所蔵・写真提供 1～4 飯能市教育委員会, 5・6 埼玉県教育委員会)

### 令和2年度 刊行報告書



■ 465 集	『向原A / 芦荻場』 (飯能市)	株式会社秀拓飯能地区開発事業予定地に係る埋蔵文化財発掘調査報告
■ 466 集	『上宿遺跡』 (志木市)	0209 交付金(改築)工事(上宿遺跡埋蔵文化財整理業務委託)一般国道254号/志木市上宗岡地内埋蔵文化財発掘調査報告
■ 467 集	『宮西1・宮東1』 (加須市)	首都圏氾濫区域堤防強化対策における埋蔵文化財発掘調査報告
■ 468 集	『北2丁目陣屋跡』 (久喜市)	首都圏氾濫区域堤防強化対策における埋蔵文化財発掘調査報告
■ 469 集	『沢口遺跡』 (深谷市)	令和2年度ボトルネック解消推進(改築)工事 主要地方道深谷嵐山線/深谷市田中地内埋蔵文化財発掘調査報告
■ 470 集	『油面遺跡』 (嵐山町)	2嵐山-14号 油面遺跡報告書作成業務委託埋蔵文化財発掘調査報告



III 発掘資料の保存と活用

一 資料の管理



出土品の写真撮影



写真整理台帳の作成



測量図面の整理

- ・ 出土品の写真撮影（デジタル） 2,500 点
- ・ 出土品のデータ作成（デジタル） 2,500 点
- ・ 写真整理台帳の作成 32,882 コマ
- ・ 実測図整理台帳の作成 3,072 枚
- ・ カラースライドの複製作成（フォト DVD） 800 コマ

二 保存処理



出土金属製品の計測



出土木製品の PEG 濃度計測

- ・ 出土金属製品の保存処理 300 点
- ・ 出土木製品の保存処理 320 点

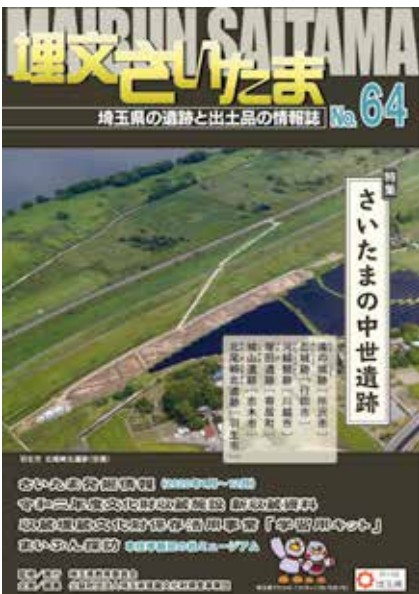
三 情報収集



図書室

- ・ 県内外の埋蔵文化財に関する情報収集（博物館、教育委員会発行物、現地資料等） 432 件
- ・ 図書の収集・整理保管（県教委受入図書の整理、収納） 480 点
- ・ 図書データ作成（内訳：県教委 322、収蔵施設 158、事業団 2,189 冊） 2,669 冊
- ・ 資料室利用者等への対応（随時） 118 人

四 印刷物の刊行・配布



『埋文さいたま』第 64 号  
特集：さいたまの中世遺跡

- ・ 学習用キットカタログの作成 2,500 部
- ・ 埋蔵文化財ニュース（『埋文さいたま』第 64 号） 6,000 部
- ・ 遺跡見学会資料の作成（参加者用 1,000 部×2 回） 2,000 部



五 出前授業「古代から教室へのメッセージ」



遺跡から出土した土器や石器、埴輪などを小中学校の学習用教材として活用しています。ふだん発掘調査等に従事している専門職員が、埼玉県内から出土した本物の土器や石器、埴輪などを持参して授業を行います。

令和2年度「古代から教室へのメッセージ」実施校一覧（40校）

1	6/11 (木) ・12 (金)	さいたま市立高砂小学校	15	7/20 (月)	草加市立青柳小学校	29	10/6 (火)	熊谷市立妻沼小学校
2	6/22 (月)	羽生市立手子林小学校	16	7/27 (月)	行田市立下忍小学校	30	10/7 (水)	久喜市立三箇小学校
3	6/23 (火)	秩父市立荒川東小学校	17	7/28 (火)	長瀨町立長瀨第二小学校	31	10/9 (金)	行田市立太田西小学校
4	6/24 (水)	久喜市立菖蒲東小学校	18	8/21 (金)	本庄市立仁手小学校	32	10/13 (火)	鴻巣市立馬室小学校
5	6/26 (金)	新座市立野火止小学校	19	8/24 (月)	幸手市立行幸小学校	33	11/6 (金)	熊谷市立妻沼東中学校
6	6/29 (月)	寄居町立桜沢小学校	20	8/25 (火)	久喜市立栗橋小学校	34	11/12 (木)	幸手市立幸手小学校
7	6/30 (火)	杉戸町立杉戸第二小学校	21	8/26 (水)	熊谷市立男沼小学校	35	11/18 (水)	吉見町立東第一小学校
8	7/1 (水)	加須市立花崎北小学校	22	8/27 (木)	北本市立西小学校	36	11/24 (火)	三芳町立上富小学校
9	7/2 (木)	加須市立大利根東小学校	23	8/28 (金)	川口市立芝西小学校	37	12/8 (火)	越谷市立大袋東小学校
10	7/6 (月)	朝霞市立朝霞第七小学校	24	9/1 (火)	東松山市立大岡小学校	38	12/22 (火)	宮代町立百間小学校
11	7/7 (火)	三郷市立彦郷小学校	25	9/4 (金)	熊谷市立久下小学校	39	1/12 (火)	川越市立芳野小学校
12	7/8 (水)	杉戸町立杉戸第三小学校	26	9/8 (火)	東松山市立高坂小学校	40	1/13 (水)	川口市立上青木南小学校
13	7/9 (木)	蕨市立西小学校	27	9/9 (水)	川口市立青木中央小学校			
14	7/16 (木)	上尾市立尾山台小学校	28	9/29 (火)	久喜市立栢間小学校			

六 学習用キットの貸出し

『学習用キットガイドブック』  
キットを使用した授業例を紹介しています。



運びやすく梱包した学習用キットを無料で貸出しています。時代別・地域別・テーマ別など、約140セットの中から選べます。社会科や図工の教材として、あるいは地域の郷土学習の資料として、ご利用ください。参考パネルや体験用の火おこしセットなども用意しています。

学習用キットの貸出し（令和2年度）

429セット



一 遺跡見学会

第1回

令和2年  
8月2日(日)

北大竹遺跡  
(行田市)

見学者 160人

発掘調査で得られたさまざまな成果や出土遺物をいち早く県民の皆さまにお伝えするため、発掘途中の遺跡の様子や、出土した遺物などを調査担当者が分かりやすく説明し、疑問や質問にもお答えします。  
土の中に埋もれていた身近な歴史に触れてみてはいかがでしょうか。

行田市 北大竹遺跡

(埼玉県業務委託事業)



第3回

令和2年  
11月8日(土)

平右衛門遺跡  
(鴻巣市)

見学者 130人



第2回 令和2年10月11日(日) 富田庚申塚遺跡(寄居町)は、悪天候のため中止(埼玉県業務委託事業)



二 集客施設等の展示

発掘！さいたま出土品展

「ほるとま展2020」



■ ほるとま展 2020

1	酒づくりの森「秩父錦 酒蔵まつり」(秩父市)	令和2年4月11日(土)	中止
2	ララガーデン春日部(春日部市)	令和2年7月22日(水)～25日(土)	見学者:3,657人
3	ららぼーと富士見(富士見市)	令和2年11月13日(金)～16日(月)	見学者:4,483人
4	モラージュ菖蒲(久喜市)	令和2年11月26日(木)～29日(日)	見学者:2,362人
5	熊谷スポーツ文化公園「産業祭」(熊谷市)	令和2年11月21日(土)・22日(日)	中止
6	そごう大宮店(さいたま市)	令和2年12月10日(木)～13日(日)	見学者:8,644人
7	さいたま史跡の博物館(行田市)	令和3年3月23日(火)～5月9日(日)	見学者:9,205人

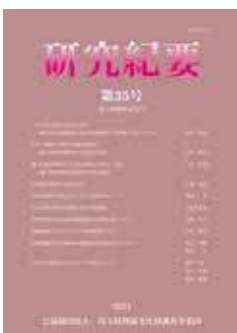
■ 出張展示 GuGuっと！縄文

1	三郷市立郷土資料館(三郷市)	令和3年2月8日(月)～3月15日(月)	変更
2	戸田市立郷土博物館(戸田市)	令和2年4月19日(日)～5月31日(日)	中止
3	久喜市菖蒲総合支所「ブルーフェスティバル」(久喜市)	令和2年6月14日(日)	中止
4	GuGuっと！縄文 in 三郷 三郷市教育委員会ホームページみさとデジタルミュージアム(Web開催)	令和3年2月9日(火)～3月14日(日)	閲覧:577人



### III 発掘資料の保存と活用

<b>三 まいぶんフェスタの開催</b>			
令和2年「県民の日 まいぶんフェスタ」	会場：埼玉県文化財収蔵施設	令和2年11月14日（土・県民の日）	中止
<b>四 さきたま史跡の博物館との共同展示</b>			
令和2年度最新出土品展 「地中からのメッセージ」	会場：さきたま史跡の博物館 企画展示室 共催：さきたま史跡の博物館・埼玉考古学会	令和2年12月12日（土）～ 令和3年2月7日（日） 緊急事態宣言発令により令和2年12月12日（土）～23日（水）のみ開催	来場者： 1,471人
<b>五 遺跡報告会の開催</b>			
第53回遺跡発掘調査報告会 埼玉考古学会・埼玉県埋蔵文化財調査事業団・ さきたま史跡の博物館	会場：さきたま史跡の博物館	令和3年1月17日（日）	中止
<b>六 公開考古学講座</b>			
令和2年度ほるとま考古学セミナー	テーマ：「Sound of Silence - 音の考古学 - 」 会場：彩の国さいたま芸術劇場	令和3年1月9日（土）	中止
<b>七 印刷物等</b>			
講座・講演会資料	ほるとま考古学セミナーレジュメ	発行：令和3年1月9日	500部
発掘情報チラシ		発行：随時	
年報	「さいたま埋文リポート2020」（年報40）	発行：令和2年8月26日	700部
研究紀要	「研究紀要」第35号	発行：令和3年3月18日	500部
<b>八 研修等の受入れ</b>			
総合教育センター研修（視察）		令和2年10月22日（木）	11人受入
吉見町立西ヶ丘小学校社会科見学		令和2年11月25日（水）	12人受入
<b>九 講師等の派遣</b>			
さきたま講座「縄文時代の石器について」	講師：入江直毅 会場：さきたま史跡の博物館	令和3年3月20日（土） （オンライン公開）	111人視聴
<b>十 その他</b>			
文化庁主催「発掘された日本列島2020」	展示解説他 会場：東京都江戸東京博物館	令和2年6月6日（土）～ 8月10日（月・祝）	派遣中止
全埋協関東ブロック 関東考古学フェア	スタンプラリー		不参加
全埋協関東ブロック「発掘された関東の遺跡2020」	遺跡発表会 会場：東京都江戸東京博物館	令和2年7月11日（土）	中止
友山まつり	会場：根岸家長屋門	令和2年4月25日（土）	中止
東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団 普及連携事業公開セミナー	テーマ：「方形周溝墓を考える」 会場：東京都江戸東京博物館	発行：令和3年1月17日（日）	中止
事業団オリジナルグッズの企画・製作			
SNS（公式ツイッター）による遺跡見学会等の各種情報提供	フォロワー総数：774人 令和2年度ツイート数：42回		
<b>十一 研究及び研究支援等</b>			
埼玉県キャリア教育アワード参加	県立大宮工業高校、県立川越工業高校		最優秀賞受賞



「研究紀要」第35号



「さいたま埋文リポート2020」  
（年報40）



3Dプリンターによる  
土偶レプリカ



埼玉県キャリア教育アワード  
レーザー加工機による  
土器バスケット



## IV 事業団の概要

### 一 設立の趣旨と目的

古くから多くの人々が豊かな生活を営んできたこの埼玉の県土には、先人の生活の足跡をものがたる埋蔵文化財が数多く残されています。これらの文化財は、郷土埼玉の歴史を解明する上で必要不可欠な資料であるとともに、貴重な文化遺産でもあります。これを保護し後世に伝えることは、今日の我々の責務であると言えます。一方において、県内経済の安定成長を確保し、県民生活の向上を図るため、各種の公共開発等が盛んに実施されており、その事業が埋蔵文化財の包蔵地に及ぶことも少なくありません。そうした場合には、緊急に発掘調査等の保護措置を講ずることが必要です。

埋蔵文化財の保護と県土の開発の調和を図るためには、文化財保護法の定める精神を基本理念として、公共開発に適切に対処していくことが重要です。

公益財団法人埼玉埋蔵文化財調査事業団は、こうした趣旨の下で、県内の埋蔵文化財の調査・研究、記録保存を行うとともに、埋蔵文化財の保護思想の啓発と普及を図ることを目的として、昭和五十五年に埼玉県の出資により設立されました。

### 二 略沿革

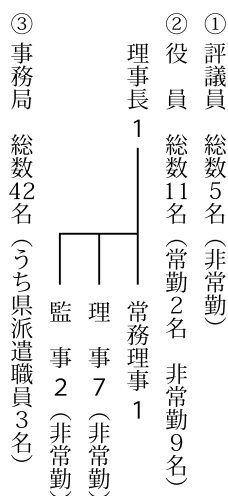
- 昭和五十五年四月 財団法人埼玉埋蔵文化財調査事業団設立。事務所を県パンビル（浦和市岸町7・6・13）内に置く。
- 昭和五十七年四月 2部4課制、役員11名（理事9、監事2）、事務局員32名。事業団本部事務所を大宮市櫛引町2丁目499番地に移転。2部5課制、役員12名（理事10、監事2）、事務局職員52名。
- 昭和六十二年四月 大里整理事務所開設（大里郡大里村箕輪）。
- 平成元年十月 事業団本部事務所が大里郡大里村大字箕輪字船木813に移転。
- 平成二年四月 埼玉県立埋蔵文化財センター設立に伴い、事業団本部事務所の所在地を同センター内に置く（大里郡大里村大字箕輪字船木884番地）。
- 平成三年八月 大宮整理事務所を大宮市東大成町2丁目557番地5に設置。

### 三 組織の概要

- 平成十年六月 大里村の区画整備事業に伴い、事業団本部の住所表示を大里郡大里村船木台4丁目4番地1に変更。
- 平成十二年三月 大宮整理事務所廃止。
- 平成十四年四月 大里村の町制施行により、大里町となる。
- 平成十七年十月 市町村合併により、事業団本部の住所表示が熊谷市船木台4丁目4番地1に変更。
- 平成十八年四月 埼玉県立埋蔵文化財センター廃止により、施設名称が埼玉県文化財収蔵施設となる。事業団本部事務所の所在地を同施設内に置く。
- 平成二十四年四月 公益財団法人に移行する。

#### (1) 事業

- ① 埋蔵文化財の発掘調査・記録作成
  - ② 埼玉県教育委員会から委託された保存活用業務による資料保存・普及事業
  - ③ 県内遺跡等埋蔵文化財の調査研究
  - ④ 埋蔵文化財保護思想の啓発と普及
- (2) 設立年月日 昭和五十五年四月一日
  - (3) 出資者 埼玉県
  - (4) 基本財産 1,000万円
  - (5) 事務所所在地 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1
  - (6) 組織図及び人員 (令和三年四月一日現在)

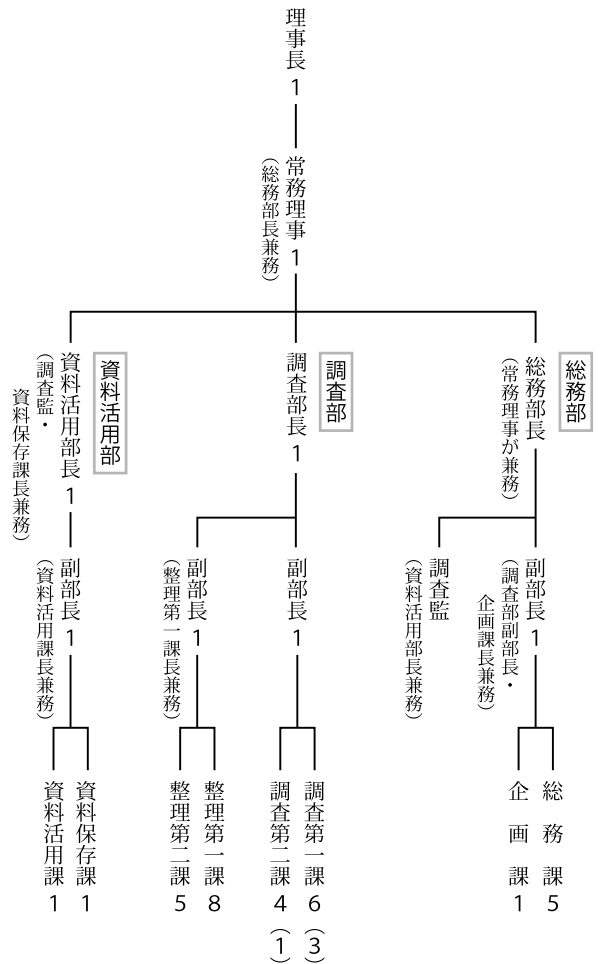


職員 36名 期限付き職員 4名（）書きで外数



IV 事業団の概要

(7) 評議員及び職員名簿 (令和三年六月四日現在)



評議員

- 新井 彰 (元公益財団法人埼玉県学校給食会理事長)
- 志賀 周子 (NPO法人親学推進ネットこうのす代表理事)
- 青木 孝夫 (総合教育センター所長)
- 小倉 均 (埼玉考古学会会長)
- 蛭川 俊也 (公認会計士)

役員

- 理事長 依田 英樹 (埼玉県教育局市町村支援部付)
- 常務理事 福沢 景 (埼玉県教育局市町村支援部付)
- 理事 羽鳥 利明 (元行田市副市長)
- 理事 水村 孝行 (元一般社団法人日本考古学協会常務理事兼事務局長)
- 理事 須田 勉 (元国士館大学文学部教授)
- 理事 小泉 玲子 (昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科教授)
- 理事 小柳 光春 (深谷市教育委員会教育長)
- 理事 太田 洋 (太田株式会社取締役社長)
- 理事 花川 貴香 (埼玉県文化団体連合会・貴香会代表)
- 監事 横田 喜男 (元公益財団法人埼玉県体育協会管理課長)
- 監事 原口 博 (公認会計士)

事務局職員

- 常務理事兼総務部長 福沢 景
- 調査部長 田中 広明
- 資料活用部長 山本 靖
- 総務部副部長 上野真由美
- 調査部副部長 渡辺 清志
- 調査部副部長 福田 聖
- 資料活用部副部長 栗岡 潤
- 総務課長 鈴木 裕一
- 調査第一課長 横田千枝子
- 調査第二課長 堀内 紀明
- 整理第一課長 岩崎 里歩
- 整理第二課長 福地 大介
- 資料保存課長 瀧瀬 芳之
- 資料活用課長 大屋 道則
- 主任 青木 弘
- 主任 滝澤 誠
- 主任 岩瀬 讓
- 主任 吉田 稔
- 主任 和田 琢哉
- 主任 菊池 耕晏
- 主任 高橋 杜人
- 主任兼調査第二課長 大谷 徹
- 主任専門員 大塚 和夫
- 主任専門員 入江 邦明
- 主任 小林 直毅
- 主任 矢部 直毅
- 主任 村山 卓
- 主任 渡邊理伊知
- 主任 砂生 智江
- 主任 赤熊 浩一
- 主任専門員 水村 雄功
- 主任 高橋 一生
- 主任 古間果那子
- 整理第二課長 金子 直行
- 主任 加藤 隆則
- 主任 魚水 環
- 主任 富田 和夫
- 主任 黒坂 禎二
- 主任 井上 真帆
- 主任 桑原安須美



**さいたま埋文レポート2021 年報41 (令和2年度版)**

---

令和3年8月10日発行

編集・発行 **公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団**

〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1

TEL 0493 (39) 3955 FAX 0493 (39) 3579



<https://www.saimaibun.or.jp/>